

「悪魔からの誘惑」

2015年05月06日

ルカによる福音書 4章1節～4節。 さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。

主イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受けた時、天が開け聖霊が鳩のように降り、「あなたはわたしの愛する子、心に適う者」という天からの声があった。主イエスは神の愛を表す神の子であるとの御告げを受けた。受洗後、神の愛を表す神の国の宣教に向われる前に、悪魔の誘惑に合われた。マルコ福音書1章12節、13節に「それから、“霊”はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた」とだけ記している。

マタイ、ルカ福音書は悪魔の誘惑の内容を書いている。誰も見た訳でないが、両福音書記者たちは主イエスがどういう基盤に立って神の国の宣教をしたか、それは神の言葉への全幅の信頼であると伝えている。

主イエスは洗礼を受け、ヨルダン川から聖霊に満たされて帰られた。すると、悪魔が現われ、主イエスは“霊”によって引き回された。この霊は悪魔の霊でなく、神の霊である。悪魔は神に用いられたのである。主イエスは40日間、何も食わず空腹になられた。その主イエスに悪魔はお前が本当に神の子であるなら、石をパンに変える力があるはずだ。その力を用いて石をパンに変え、空腹を満たしたらどうだと誘惑した。主イエスは「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。この聖句は申命記8章3節「主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった」からの引用である。

イスラエルの民は出エジプト後、荒れ野を放浪し、飢えと渇きの苦しみを体験した。神は天からのマナを与え、岩から水を湧き出させ、必要を満たした。この苦難の中で、人はパンだけで生きるのではなく、神の確かな言葉に支えられて生きることを知った。人はパンなしには生きられない。しかし、パンのみを求めて生きていると、隣人が見えなり、心が腐る。

この聖句を読む度に、韓国の詩人・金芝河の詩を思い起こす。「飯が天です/ 天を独りでは支えられぬように/ 飯はたがいに分かち合って食べるもの/ 飯が天です/ 天の星をともに見るように/ 飯はみんなと一緒に食べるもの/ 飯が天です/ 飯が口に入るとき天を体に迎えます/ 飯は天です/ ああ 飯は みんながたがいに分かち食べるもの。」金氏は韓国の軍政時代、飯が食えない民衆の飢えを代弁している。そして、飯を共に食べる時、天を、神を、体に迎えると歌っている。世界に必ず食料難が襲ってくる。力ある者が食料を買い占めると、餓死者が出る。既に、8億5千万人(9人に1人)が飢餓に苦しみ、年間5百万人の子どもが死んでいる。神の言葉とは神がパンを与えてくださり、神は全ての人を愛しているということである。この神の言葉を聞いて互いに分かち合って食べよう。そこで、人は真に生きるものとなる。